

# 0 パツとしないし、夢もないし…

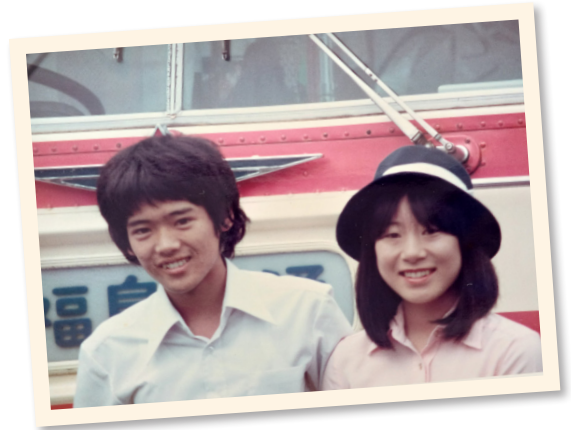
リアル・ハジメの半生

## ① 高校生のころの、ハジメ

こんにちは。この教科書の「ハジメ」の名前のモデルとなった、現在60過ぎのリアルハジメ（北折<sup>きたおり</sup>一<sup>はじめ</sup>）です。他の家庭科教科書とはちょっと違う「生き抜け！」というコンセプトを編み出したのがきっかけで、マンガの主人公の一人がハジメという名になりました。もちろんマンガのハジメとは全然違うけど、「そこそこ紆余曲折の人生」というのは同じだったりしますので、ちょいご紹介しますね。

まずは【ハジメ・16歳】から。

まあとにかく内気で、高校生活3年間で女性とのツーショット（死語？）写真は、修学旅行のバスガイドさんと撮った、これが唯一。こんな子でしたというのをまとめておくと、この通り。



**不得意科目:** 理数系（数学で0点も取りました）

**性格:** 引っ込み思案でテレビ好き。一人でいるのが得意。人前ではまったくしゃべれない。

**彼女:** 小・中・高いずれも片思いの子はいたけど、少しも何にもうまいくさず

**友人:** ブカツの仲間程度

**好きな食べ物:** ウナギ。こんなにうまいものがこの世にあっていいんだろわかレベル

**趣味:** 近所の川で釣り。一人で黙ったまままでできるんで。

**ブカツ:** 高1で水泳部をやめ、高3から演劇部（セリフがあればしゃべれなくはない）

**将来の夢:** なし。なりたいものもやりたいこともなし。てゆーか考えてもない。

**この写真:** 修学旅行で他の人も撮っていたので、ただ順番待ちで撮りました。

【ハジメ・16歳】

明るくて活発な人気者…に憧れてはいたものの、女子とは話もできないほど内気な性格で…。



作・画：本人

こーまでパツとしない子だったのに、な～ぜかなぜか、大变身！ その後の人生は、本人すらまったく想像できなかった事態になっちゃいました。なんとなんと、NHK 史上まれな高視聴率番組「ためしてガッテン」（中高年ならみんな知ってます）の「伝説の看板ディレクター」（←自分で言うな）にはなるわ、世界的登山家も遭難したアラスカの高峰に「トラの着ぐるみ」で登頂しちゃうわ、しかも人前ではしゃべれなかったはずなのに全国の日本酒蔵元さん大集合の巨大宴会で乾杯のご挨拶までしちゃうわ…って、一体全体、何がどーしてそーなった！?!?!?!?!?

それはですねえ。「わらしべ長者なの？」くらい、出会った人出会った人の不思議な導きがあったからでございます。実は、その導きをゲットできる**あるコツ**があるんです。めちゃ簡単だけどもめっちゃすごい、誰でもできるコツが。きっと皆さんの人生も、今の想像とはかなり違ったものになります。「家庭科」は、自分の人生について考えるための、ただ一つの教科。そのご参考となればいいな～なんて思って、リアル・ハジメのその後を紹介していきます！

本人注：この文章はあくまでも「人生そーゆーこともある」の一例紹介で、この「生き抜き方」を全面的に推奨しているわけではありません。必要な時には勉強することも大事です。また、教科書的には不適切な表現を含みますが、まあお許しくださいませ。

# 1 別の手があるなら…

やればできるっつーか

【ハジメ・17歳】

ウナギのためなら、嫌いな勉強も…とはいうものの、成績はいつもそこそこ止まり。ところが…



## ① あきらめない精神、とも言う

大好物のウナギを「テストの成績がよければ食べさせる」という父との約束で、少々勉強していたばく。ある日たまたま、近所の川で見知らぬおじさんがウナギを釣ったのを目撃。**タダ同然で手に入る**と知っちゃった以上、もう勉強はそっちのけ。まったくの独学でさばいて蒲焼きができるほどになりました。勉強を頑張る、という方法以外でも欲しいものが手に入る。普通の人あまりやらない方法でも**やりようを工夫すればできる**、強く願えばかなう、というのを知った高3の夏でした（いや、受験生なんだから勉強はしとけよ）。

その少し前の高2の冬。ヒマなら手伝ってほしいと頼まれて、少しも関心なかった演劇部を見学。顧問の先生がまったくのグータラで年に1~2回しか来ないらしく、だったら廃部なんじゃないのと思いきや、まったくの逆。作・演出ばかりか大会出場の手続きもすべて自分らだけでやってるのを見て、一撃でハマり、出演までしちゃいました。顧問が来ない分、他校の先生からの信頼絶大で、完全に大人扱い。しかもほかの学校が女子ばっかで、男子ってだけでもてはやされる。なんじゃこりゃ、天国じゃん！ 何よりも「みんなでひとつのものを完成させる喜び」が大きかったんですが、教室で自分の意見さえ言えなかったばくにとっては、「セリフさえ決まれば」という、**別の手段でならば**大きな声で語れると知ったのが、人生の大事な転機になりました。しかも、自分が本当にやりたいことのためなら、自分の言葉で話すこともできる。

ついでにいうなら、上の人間がイマイチな時こそ、うまくやれば自分のチャンスだということも学ぶことができましたね。

## ② ウナギのせいで、こーなった!?

人生、何がきっかけで変わるかわからないもの。体力にはまったく自信がなかったのになぜかこんなこと（写真参照・左）になっちゃうし、人前では少しもしゃべれない生活が長かったのに、なぜか現在の仕事は講演業。人前でしかしゃべらない人になっちゃうなんてねえ。それもこれも、ウナギのせいって、まったくもって、どーゆーこっちゃねん!?



アラスカ・マッキンリー（デナリ）6,190m。1997年登頂。この格好で遭難すると世界中の恥さらしになるので、めちゃ緊張。

# 2 アメリカの母、川を流れる

そんなのアリなんだ

## ① 20歳で知った、人生の極意

ある日、弟が小学校の恩師と釣りに行った日のこと。我が家から何十kmもさかのぼった、幅2~3mの溪流で釣ったというその魚を見たときの衝撃といたら。ウナギは別としてそれまでコイやフナなど泥臭い感じの魚しか見たことなかったぼくには、こうまで美しい魚が川にいるとは、アンビリーバブル！ 天の魚と書いてアマゴ（画像検索してね）、激美。そして弟の発したひとことには**さらなる衝撃が！**「全然こんなもんじゃないよ。釣れたときはもっときれいだった」。そんなの聞いたら見たくなるでしょ、釣れた瞬間のアマゴを。大学そっちのけで、せっせと溪流に通いました。

ところがそのアマゴ、めっちゃ警戒心が強くて人の気配を感じたら半日は岩の下にもぐってエサも食べないんだそう。片道3時間かけて1匹も釣れない日々。釣れた経験がないから、いつまでも釣り方がわからない。「なんで釣れてくれないの~?」と声に出した瞬間に、答えがわかりました。それは魚ちゃんのせいじゃなく、自分のやり方の「何かが違う」からってだけの話。答えは魚が教えてくれる。「どんなエサがどう流れてきたら食いたいか」を**魚側の視点で考えるべきだ**との考え方に至りました。工夫のしどころがわかればこっちのもん。研究に練習を重ね、美しい魚体に触れるたびに、腕前も徐々に上がりました。

## ② アメリカ女性、すごすぎ

ハジメ、22歳。初の海外をアメリカに決めた理由は「ノーテン気 & 無鉄砲にも寛大だろう」と踏んだから。「やりたいことのためならしゃべれる」と学んでたので、英会話なんて習わなくて通じるはずと思ったし。もちろん溪流釣りの竿も持って行きましたよ。2週間ホームステイさせていただいた家庭は、メアリーというシングルマザーが大学生になる一人娘を育てながら、しかも引っ越しの最中という大変なタイミング。なのに、最後の週末にぼくを2泊3日のキャンプに連れてってくれました。「彼はきっとアメリカの溪流魚を釣ってみたいだろう」と、考えてくれたんですね。

驚いたのは、勤めていた会社が休みをくれなかったからという理由で、**なんとメアリーは会社を辞めた**と知ったとき。だって日本では最初に就職した会社で定年まで働くのが「当然」だった時代ですよ。ぼくはキャンプ場で恐る恐る聞きました。「Q. あなたは、私をキャンプに連れて来るために会社を辞めたのですか？」 そしたらその答えが、めっちゃアメリカすぎました。「ノー。私はあなたをキャンプに連れて来るためではなく、あなたとキャンプを一緒に楽しみたいから会社を辞めました」（わざと英文直訳ふうにしてます）。すごいですよねー。さらにもっと驚いたのは、その言葉の通りめっちゃ楽しんでたこと。大きな体で、浮き輪をしたまま3mほどの橋からダッバーン！と川に飛び込んで、そのまんま気持ちよさそうに川下り。「Q. あなたはどこまでいくのですか~?」 この答えもおもしろくて、「Who knows!」…言葉の通り、メアリーは見えなくなるまで流れて行って、だいぶたってから帰ってきました。**こんなふう生きるべきだ**、と心から学びました。

## ③ そんなこんなでNHKに

帰国直後に就職試験。エントリーシートの趣味の欄には「川歩き」と書きました。すると面接官が「君ね、山歩きとか溪流釣りならわかるんだけど、『川歩き』ってなんなわけ？」…はい、作戦成功。エサと流し方を工夫したら、**計算通りにパクッと食いついた**。準備しといた言葉でガッツリ語りました。作文試験のテーマは漢字一文字で、「流」。他の受験生は「時の流れ」や「流行」あるいは「他の意見に流されないよう」なんて書くに決まってるから、**回転寿司の皿の流れ**について**溪流魚がエサを見る視点**と対比させて論じました。何千何百人受けたか知りませんが、寿司は間違いなくぼくだけでしょう。もちろん自由記述欄はアメリカでの体験をたっぷり。おかげでマンマと、いや学んだことをキッチリと活かしきって、NHKに採用されました。

# 3 人生、わらしべ長者なのじゃ

ホントにそうなのじゃ

【ハジメ・23歳】

入ったばかりのNHKで、隠れた才能がいきなり開花！？  
これがまさかの展開で…



## ① エリート集団、恐るるに足らず

入ってみてビックリ、周りがみんな超がつくほどのいわゆるエリート大学出ばっかなんだもん。しかも研修中に議論してるその議論が「ディベート王による国会討論会!？」的ハイレベル。引っ込み思案のぼくは少しもついていけず、「来てはいけないところに来てしまった」と意気消沈しまくり…ではあったものの学んでましたからね、「別の手があるはず。やりようの工夫で」と。すぐに宣言しました。「悪いけど、アンタらが勉強してたとき、オレはずーっとテレビ見てたんだからな!」（と心の中で）。内容は素晴らしいのに見る気が起こらない番組がNHKに多いのは、こんな人らばっか採用してたからだ、とばかりに、基礎学力の低さをアイデアで乗り切ろうと試みました。結果、なんと入社半年で担当番組の史上最高視聴率をゲット。ところがここで事件勃発…

「今日は何を食べてもいいぞ」と上司に連れてってもらったのが、前から行きたかったウナギ屋さん。もちろん一番高いの頼みましたよ。ハア~もう幸せ♥と思ってたら、絵にかいたような気難しそうな大将がズカズカやってきていきなり、「貸せ」と、食べかけの重箱をぼくから奪い取ったのです。ひえ~。「上司が並を食べてんのが一番若えヤツが一番高えの頼むたァ、太え野郎だ」。落語でしか聞いたことのない「ふてえやろう」を初めて聞き、「ああ自分は思い上がった、江戸っ子は怒らすと怖いんだ」とマジ反省。すると、「そんなにウナギが好きなうれしいじゃねえか」と、ご飯とウナギを山盛りしてくれました。**好きなものを好きと表明することの重要性**を体感した瞬間。大将とはウナギ釣りの話で意気投合。なんとダム湖を船で渡って6時間道なき山越えをする源流釣りが趣味と知り、ついには山越えテント3泊ツアーにまで連れてってもらいました。これまたドハマリ!! こんな世界があるんだの世界。**好きなものは突き詰めておくとさらに深く付き合える**という超絶体験。

## ② 自分、生きている意味あるのかなあ…

なんか自分、イケるじゃん…と思っていたのも束の間。3年目に地方局に異動したらそこはガチガチの報道局で、テレビのおもしろみの話なんてまったく通用せず。やがて出勤すると脱力して電話も取れない、ソファで横たわって帰るだけのダメ人間になりました。原因不明の下痢が3か月、どの医療機関でも診断がつかず。死のうとまでは思わなかったけど、こんな役立たず生きてても意味ないなと思うようになりました。今なら一発で過敏性腸症候群（➡検索）の診断でしょうけどね。どうしても家から出られなくなったある日ふと「釣りならできるのかな?」と思い立ちました。すると…めっちゃ元気じゃ~ん、自分!!まだ生きてていいんだ!! で、「そーだった。自分はNHKの上司に褒めてもらえる番組じゃなくお客さんが喜ぶものを作りたかったんだ」と気づき直したら、あらすっきり調子よくなっちゃうという。生きる意味や目的は仰々しく掲げるものじゃなく、**大事にしたいものをただ大事にすればいいんだ**って話でした。

### ③ 高みを目指す。どんどん高みを。

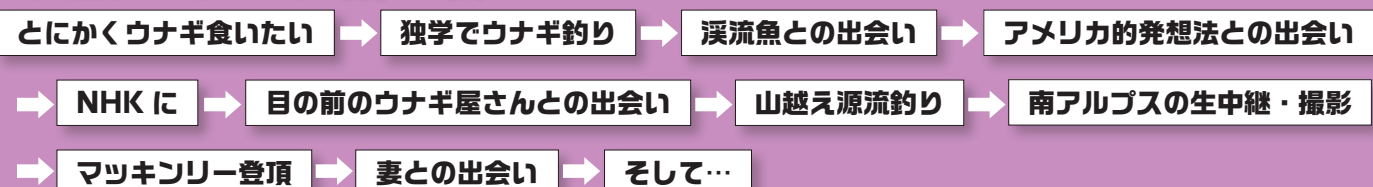
ある日、ぼくより 20 も年上のスタッフがやたら登山の趣味を話しかけて来るので「そんな、川の音のしないようなところになんで行きたがるかわからないっすねー。焚き火で魚焼く方が楽しいに決まってるし」な～んて軽口で返しました。すると次の日いきなりその人に両肩つかまれてものすごい剣幕でまくしたてられました。「ホントに山はいやか。どうしてもダメか！」 ドラマかと思う展開に驚いて聞いてみたら、民放含め誰も実現していない南アルプス 3,000 m 峰の山頂生中継を取り仕切れるディレクターを 10 年待っていたんだとか。木も生えないようなところには行きたくないけど、そうまでいうなら下見くらいなら…と出かけて行ったら、またまたドハマリ！！どっひゃー、森林限界こんなに気持ちがいいんだ。小さな花の一つ一つが、こんな美しくも過酷な環境でぼくを待っていてくれたなんて。出会いは別の出会いを連れて来る、考えたこともない世界にもたどり着ける、という学びっすね。

世界初の生中継もバッチリ大成功、するとその番組を見てた東京の NHK の人からすぐ翌日に電話が。「今開発中のハイビジョンカメラであの風景と花々を撮影したい。ディレクターを務めてほしい」。どしえ～！！展開速すぎない？の世界。四季折々全部撮りたいって話になったんで、まさか自分がやるとは思ったこともなかった冬山登山もロッククライミングもアイスクライミングも特訓し、600kg の機材を運んで 3,000 m の稜線に光ファイバーケーブルを 1,000 m も張り巡らせて、これまた世界初の映像を撮りましたぜ（ま、今なら数百 g ですけどね）。もちろんその最中にも世界的クライマーとの出会いなど、ホント「**出会いは出会いを連れて来る**」の実感だらけ。中でもぼくを突き動かしたのは、荷物持ちのバイトで雇った学生さんがポロッと漏らした一言。別のバイトでアラスカ・マッキンリー（現デナリ）で測量器具を運んだんだそうで、「あ、北折さんなら全然余裕で登頂できますよ」ですって。以前の旅行で下から見て巨大さに圧倒されたマッキンリー。「あんなすごいとこ登るのはよほどの登山家かよほどのバカだよな」と思ってたのに、…そんなの聞いちゃったら行かないワケに行かないワケ。さんざん探したけど一緒に行ける日本人は見つからず、ツテのツテのツテで雪山未経験のアメリカ人ロッククライマーと現地集合（スマホもラインもない時代によくやったよな）。英語力なんて命綱を結びあえばなんとでもなるし、ロッククライマーなら雪山のテクも教えればあっという間。最低気温マイナス 30℃の中、登頂成功しました。

一生に一回くらいは海外旅行したいかな、くらいのテレビっ子な高校生が、パプアニューギニアの最高峰に登頂した 20 人目の日本人になり、パキスタンの未踏峰にも登り、マッキンリーにはトラの着ぐるみで登頂した世界初の人類になっちゃったり（寅年の年賀状のためです。ま、バカです）。これ全部、たまたまウナギが好きだったりしなけりゃ起きてません。日本から竿を持って来てるのを見なければメアリーも会社を辞めたりしなかつたらうし。

何かが何かにつながってどんどん幸せになる「わらしべ長者」。あのお話は「正直でやさしい心を持っていると幸せになる」というテーマですが、実は「人のココロが人のココロを呼び寄せる」って話だったんじゃないかなーと思うワケです。で、最初のページに「導きをゲットする、誰にでもできるコツ」があるって書いていたの、覚えてますか？ ここまで読んでいただいたので、明かしましょう。実はもう本文中に答えは書いてあるんですよ。そのコツとは、**好きなものは好きと伝えること**です。そして、ちゃんとそう伝えられるほどに、**好きなものはとことん突き詰めること**です。そしたら、思ってもみなかった幸せに、かなりの高確率で出会えますぜ。そーでなかったら、何かがちょっと足りないだけ。もうちょいやればきっとイケます。

#### 「人生、わらしべ長者」の図



# 4 ww は、わらしべわらしべ (笑)

いやマジそうだべww

【ハジメ・54歳】

なぜか誘われた教科書作り。今までとは違うものにと意気込んだら、未来の自分の姿がそこに…。



## ① NHK 史上最高の高視聴率長寿番組

ぼくが担当していた「ためしてガッテン」は大人気の生活科学番組で、この教科書の p.54 ボタンつけの真鍋さんも p.110 チャーハンの斉さんも、番組出演者でした。「視聴率ひとケタ」だった番組から NHK としては異例の 20% 越え連発に変わった理由は、ぼくが溪流釣りの名人（自称）だったから、すなわち元々ウナギが好物だったからです。それまでは「価値の高い情報を NHK 的にわかりやすくおもしろく伝える」というやり方だったのを変えました。「**どんな情報をどう流せば食いつきたくなるか**」を NHK 目線ではなく視聴者目線に 180 度転換して探りまくる。実は、「人の気配に驚いた溪流魚は半日エサを食べない」というのは大なる誤解で、並大抵の釣り人が流すエサを食べないだけ。食べたいものは食べるし食べたくないものは食べない。食いつきたくなるように流すテクがある人は、釣れるのです。上の人間がイマイチだったのも、変える好機でしたね。**どんなに優れた情報も、見なければゼロ**。この教科書も、その思想で作られています。

## ② 日本酒の蔵元さんちに泊まるほどに

ブドウはつぶすだけで自動的に発酵してワインになるけど、お米にはどんなに酵母を添加してもお酒になることはありません。日本酒は絶妙なタイミングでカビの力を借りて作る世界的にも最高難度な製造法。そのコントロールでこうまで多彩なお酒ができるなんて…と感動できたのも、**わらしべがつながったから**。大好きと言いつけて酒屋さんの近所に家まで建てちゃうほどになり、なおかつ「ガッテン」で理系の知識を身につけたから、日本酒雑誌の特集記事まで書きちゃうほど「お酒通」になり、それですますます全国の蔵元さんとも仲よくなって。それもこれも、わらしべ効果です。あ、決して「お酒はおいしいぞ」と勧めてるワケではないですからね。医学的には飲まない方がカラダにはいいし、まして未成年は絶対的に厳禁です。あくまでも「文化」としての話です。

## ③ あら、結婚もわらしべちゃん!? 退職後の人生も

ある日友達から「マッキンリーの写真が見たい」と電話がきて、アルバムを持って食事会に。そのとき友達が連れてきてた人が、今のぼくの配偶者です。その友達は、その何年か前にガッテンの取材先にいた人。なんでもかんでも、つながってるのです。

ぼくと「わらしべ長者」との違いは、**取り替えっこしないから、全部自分の財産になること**。49 歳で急に退職したときは、年 2 回のボーナスと NHK 職員という身分だけは失ったけど、そこでの知識や人のつながりは、全部ぼくの財産。いま講演・研修の講師や本の執筆のお仕事ができるのも、NHK 職員だからではなく、ぼく個人にお仕事のご依頼が来るからです。北海道から沖縄まであちこち講演旅行ができるのも、すべてが「わら」のつながり。おかげ

で楽しくて楽しくて毎日がwwの人生です。な〜んとなんと、最近出かけた福島県のある町にたまたま住んでて講演を聴きに来てくれたのが、最初のページの修学旅行のバスガイドさん。あの写真から40年も経ってるのに、お互いめっちゃ細かいことまで覚えてて、大笑い。**つながりますねえ。**

新型コロナで講演の仕事が無くなったときは収入激減で大変だったけど、ご近所に家庭菜園のやり方を教えてくれる人がいて、またまたハマリ。時間ができたおかげで、ナス・トマト・ピーマン・大根に枝豆・スイカ・イチゴにカリフラワー…毎年20種類以上できるようになりました。もちろん酒屋さんの近くに家を建てなければ知り合えなかったわけで、これもわらわら。そして…



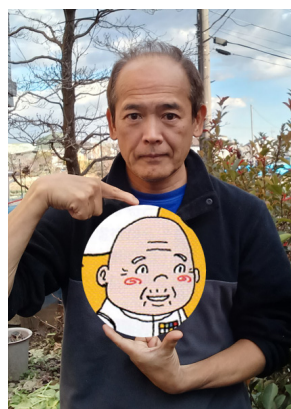
コロナ禍の家庭菜園で、スイカを支えているのは…

## 4 ありゃま、教科書までつくるなんて

それは、2006年のこと。「ためしてガッテン」が生活科学番組だったから、教科書出版会社の人がミニ冊子のインタビュー記事で番組ディレクターを話が聞きたいと、訪ねてくれたのです。「家庭科のこと全然知らないんで、教科書見せてください」とお願いして読んでみて、ビックリギョーザ店！ 小学校時代の粉ふきイモの調理と名札付けくらいの記憶しかなかったぼくには、衝撃過ぎる内容でした。「これ、家庭科なんて言ってる場合じゃなくて\*、完全に『生き方科』じゃないですか！！！！」…それをですなえ。10何年も覚えてくれたのです、編集者の方が。で、「新しい教科書作るので協力してほしい」と。ウナギ好きで引っ込み思案のテレビっ子がまさか教科書作りに参加だなんて、どこがどーしてこーなった！？な話でしかないのに、ぜ〜んぶつながってたってこと。

やるからには、**ほかとは違う「食いつきたくなる」**ものにしなきゃ。カチカチの内容ではなく、4コママンガ載せるくらいじゃなきゃ。生活の基礎を教え込むんじゃなく、「わかった喜び」「自分でできる喜び」を味わえるものじゃなきゃ。調理も裁縫も「プロの技、ゲットしちゃったぞ自分！」くらい味わえるものにしなきゃ。…だって、それができた人はもっといろいろ自分のものにしたくなるのを、ぼくは知ってましたから。いいこと知っちゃった人はまた来週も見てくれる。元テレビ屋が関わるからこそ、そんな教科書にしたい。そして、ぼくが家庭科で一番感動したことを、思いっきり前面に押し出したい。…だからこの教科書のコンセプトは、「生き抜け！」なのです。家庭科は、「生き方科」なんですもん。そして…この文章のぼくからのコンセプトは、「**つながってれば、生き抜けるぞ！**」なのです。

こんな長い、ここまで読んでくれた人はどれだけいるのかなー。貴重な存在であることは確かなので、とっておきの大事なことを教えちゃいましょう。絶対に間違いのない事実。それは、**この教科書を選んでくれた、あなたの学校の家庭科の先生は、間違いなくめっちゃ生徒思いのいい先生だということ。**だって、ものすごく勇気いりますよ、こんなマンガだらけで中学英語の教科書かよと思っちゃうような表紙のやつ、選ぶって。もちろん、「パッと見



最近の私……なんか、近づいてる…？

からして大違い」な教科書にしなきゃ気づいてもらえないからこうなってるんですが、瞬間的に引いちゃった先生もきっと多いかと思えます。パッと見がおかしいからこそ、吟味に吟味を重ねて、その先生はこの教科書を選んでくれた。そこは間違いありませんから。この教科書がほかよりいいかどうかは、立場上口が裂けても言えませんが、生徒のために吟味して選んだ…そんな先生とつながると、**将来ほぼ間違いなく、いいこと起きますよ。**……以上、長々とリアルハジメからのメッセージでした！

\* 「家庭科」という言葉に誇りを持っている方、ごめんなさい。そのとき素直にそう思っただけの言葉でしかありません。